

えにしに誘(いざな)われて 鶴岡市、出羽三山神社の表敬訪問

議長 前 田 邦 弘

留山の坂の入口から農道に入り百メートルほど進むと天宥法印別当の大きな墓がある。別当は羽黒山中興の祖と仰がれ、当地の治水事業、杉の植林、道路の整備等数々の業績を成し遂げた。しかし反対派の策謀により 1667年、新島に流罪となり、7年後に81歳で遷化された。

出羽三山神社では天宥法印の偉功を称え、毎年6月に墓参団を派遣し、墓前での法要供養を欠かさず営んできた。

このような縁で新島村と鶴岡市（当時は合併前の羽黒町）は昭和59年に友好盟約を結び、毎年スポーツ、物産展等の交流を図り友好を深め、今日に至っている。

来年は友好盟約30周年を迎えるが、榎本市長一行が今年2月に来島され、議会ではその返礼も兼ねてこの5月16日に鶴岡市を表敬訪問した。

古い城下町がルーツであるだけにしっかりと落ち着いた佇まいで、市役所は城址に隣接してあった。

市役所では榎本市長、野



村議長、武田羽黒支所長ほか多くの職員に出迎えていただき歓待を受けた。続いて市長室で市長や議長と意見交換を行ない、今後とも一層の友好関係の継続をお願いし、なごやかなうちに会談を終えた。この後、庁舎内の議会堂、議長室や議員控え室等を見学したが、人口13万人の自治体だけに当村とは様相が違っていた。

民間の草の根の交流は大事だが、同様に議会・行政関係者との交流も負けず劣らず大事であり、今回その重要性を痛感した。やはり気は心というか、理屈では割り切れないものがあり、直に接することでお互いの理解がより深まった、と実感した次第である。

市庁舎を後にし今度は道路を隔てて旧城郭内にある藤沢周平記念館を見学し、次の目的地である出羽三山神社へ向かった。現地では



山伏姿の若い修験者の方に案内していただいたが、あいにく霧が立ち込め（このようなことはめずらしいとのこと）、見通しが悪かったが、逆に深山幽谷の地にふさわしいようにも思えた。

ここでも格別の歓待を受け神社内の貴賓室で緒方宮司と歓談し、途中から新島には何度もみえている宮野権乃宮司も加わり、なつかしき島の思い出を語り、交流のあった人たちの名をいちいち上げ現今を安じていた。これも長い交流の中から生まれた厚情であり、感激ひとしおでした。

今回のように友好町村を訪問したのは議会として12年ぶりではほとんどの議員が



初めての経験だったが、鶴岡市や出羽三山神社には大変歓待され、より友好を深めることができ、有意義な訪問であった。